



みなみ筑後の大豆づくりによみ

作成：令和6年12月
南筑後農業協同組合
南筑後普及指導センター

大豆づくりはまず土づくりと適期播種から

令和7年産

喜ばれる「みなみ筑後」の大豆づくり重点事項

- (1) 収量・品質の向上
 - ①収量向上対策の徹底(土づくり、連作の回避、排水性の改善)
 - ②基本技術の励行(適期播種、排水対策、中耕・培土、病害虫・雑草防除)
 - ③種子更新率100%
- (2) 安全・安心な大豆生産
 - ①栽培履歴・GAP(農業生産工程管理)の全出荷者記帳・提出
 - ②農薬適正使用と飛散防止対策の徹底
 - ③発生予察に基づく適期防除による農薬使用回数の低減

月	旬	主な作業	作業内容
6	上	品種	「ちくしB5号」とする。[品種特性表]参照 [施肥基準]参照
	中	土づくり	PHの矯正 6.0程度に矯正 e-green 4-4-20 40kg/10aを投入 地力増強のため麦ワラや堆肥などの有機物や、ミネラルG 200kg/10a、土力の素45kg/10aを投入し、地力を維持する。
	下	(雑草防除)	[除草剤基準]参照
7	上	種子消毒	キヒゲンR-2フロアブルを種子1kg当り20ml塗沫またはキヒゲンを種子1kg当り10g粉衣する。(鳥の食害防止)または、クルーザーMAXXを種子1kg当り8ml塗沫する。(鳥の食害防止-ネキリムシ対策-湿害軽減)
	中	耕起・播種	ロータリー耕で充分砕土を行い、同時に播種する。 ※梅雨明け後は、ほ場が乾燥し過ぎる前に、速やかに5cm以上の深さで播く。 ※鳥害回避の為一斉播種を行う。部分浅耕播種や組作業で適期播種を行う。
	下	雑草防除	[除草剤基準]参照
8	上	補植	欠株が多い場合は、密植部分から根に株元の土を多くつけた状態で補植する。 (追播は、成熟期が異なるため行わない)
	中	中耕・培土	播種後15日頃(本葉3枚頃)
	下	中耕・培土	播種後25~30日頃(本葉5枚頃)
9	上	害虫防除(ハスモンヨトウ)	[病害虫防除基準]参照 ※白変葉(ハスモンヨトウ孵化直後)の手取り除去を行う。
	中	病害虫防除(ハスモンヨトウ)(カメムシ類)(紫斑病)	[病害虫防除基準]参照 ※8月中下旬の防除と9月上中旬の防除は必ず行う。また、9月上中旬の防除時は、3種混合で行う。
	下	畦間かん水	子実肥大期に、ほ場が乾燥しすぎるようであれば、かん水を実施する。
10	上	青立株抜取り	刈り取り前に、青立ち株や雑草を抜取る。
	中	成熟期	成熟期は大部分が落葉し、莢を振ると音をたてる程度に乾燥した時期
	下	刈取	刈取適期は、成熟期~成熟期後10日頃まで(汎用コンバインでの刈取は成熟期後7~14日頃)
11	上	脱粒	脱粒機は、損傷粒が発生しないように回転数に気をつける。
	中	乾燥	葉/全部落ちて残っていない。 莢/指でさわってもベトつかない。 莢を振るとカラカラ音がする。(水分20%以下)
	下	調整	茎/乾いて、指でさわってもベトつかない。(水分50%以下) できれば40%以下 子実/噛むと歯型がつく。(水分17%以下)



品種特性表

品種名	開花期	成熟期	主茎長	耐倒伏性	10a当り子実重
ちくしB5号	8月21日	11月1日	67cm	やや強	366kg

※7月10日播種

播種時期・栽植密度規準 (2粒点播の場合)

播種時期	7月5日~19日(適期播)	7月20日以降(遅播)
播種量(kg/10a)	3.0~5.0	6.0~7.0
条間、畦幅(cm)	70、140	
株間(cm)	25	15~20

施肥基準

播種時期	10a当り	
	7月上旬~中旬(適期播)	7月下旬以降(遅播)
土壤改良材	ミネラルG 200kg 土力の素 45kg	
土壤改良材入り肥料	e-green 4-4-20 40kg	

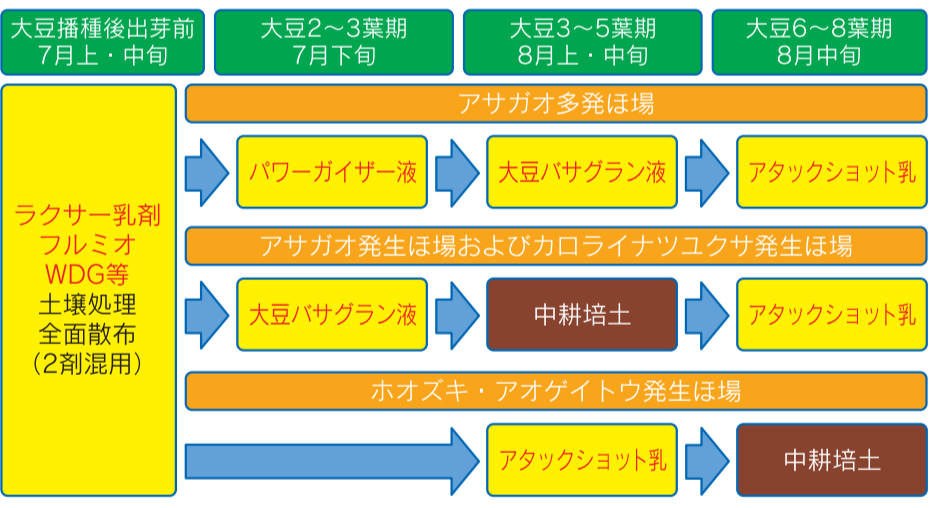
除草剤基準

使用時期	除草剤名	10a当り使用量	10a当り希釈水量	使用上の留意点
播種前(雑草が多い場合)	ラウンドアップマックスロード	200~500ml	25~100ℓ	飛散防止対策を徹底する
	ザクサ液剤	300~500ml	100ℓ	
播種後出芽前(雑草発生前)	ラクサー粒剤	4~8kg	-	砕土を丁寧に行い、覆土を十分に行う
	ラクサー乳剤	400~800ml	100ℓ	1年生雑草
雑草生育期(8月)イネ科雑草3~10葉期	フルミオWDG	5~10g	100ℓ	ホオズキ類、ホリアオゲイトウ、ラクサー乳剤と混用
	ポルトフロアブル	200~300ml	100ℓ	1年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)収穫30日前まで
大豆2葉期~開花前	大豆バサグラン液剤	100~150ml	100ℓ	アサガオ類、カロライナツユクサ、収穫45日前まで
	アタックショット乳剤	30~50ml	100ℓ	

※特にフルミオWDGを使用する場合は、散布器・タンク・ホース・ノズルは専用の洗浄剤で丁寧に洗浄する。

難防除雑草の防除法

アサガオ類やホオズキ等の防除は、初期除草剤散布のみでは不十分であるため、中期除草剤、中耕培土を組み合わせ、実施する。



病害虫防除基準

防除時期	対象病害虫	薬剤名	10a当り使用量	使用回数	備考
発生時	マメハンミョウ	スミチオン乳剤	1,000倍 水100ℓ	4回以内	1回目の防除でスミチオン乳剤とノーマルト乳剤を混用する。
8月中~下旬	ハスモンヨトウ	ノーマルト乳剤	2,000倍 水100~150ℓ	2回以内	無人航空機散布
		アクセルフロアブル	8~16倍 0.8ℓ		
9月上中旬	ハスモンヨトウ	アクセルフロアブル	2,000倍 水100~150ℓ	3回以内	無人航空機散布
		プロフレアSC	4,000倍 水100~150ℓ		
	カメムシ類	スタークル液剤10	32倍 0.8ℓ	2回以内	無人航空機散布
		トッジンM水和剤	1,000倍 水150ℓ		
紫斑病	アミスター20フロアブル	8倍 0.8ℓ	4回以内	無人航空機散布	
	アミスター20フロアブル	16倍 0.8ℓ			

※高温年には、成熟期後半まで加害が続くので、2回目防除を必ず実施する!!



農薬適正使用と飛散防止対策を徹底しましょう!

南筑後農業協同組合 農畜産課 TEL(63)8814
 南筑後普及指導センター TEL(62)4191
 瀬高グリーンセンター TEL(62)4111
 山川グリーンセンター TEL(67)1214
 高田グリーンセンター TEL(22)3218
 大牟田グリーンセンター TEL(56)8915